

## 子どもの場——子どもと典禮②

「場」は「在る」ために必要なこと。子どもがミサに参加するためには、まず「子どもの場」が必要。母親のそば、友だちと一緒に、聖堂の後ろ。しかし、いわゆる「泣き部屋」や「母子室」と呼ばれるものが「子どもの場」か。「子どもの場」は大人と同じで「神の前、神の中」。そのことが子どもに伝わるように工夫する必要がある。

ミサは、ただ行くだけや、そこにすることに意味があるわけではない。ともに集ったその場所で、そこで行われ、起こっていることを体験することに意味がある。「ともに神の前、神の中にいる」……その体験がミサ。軽い言葉に聞こえるかもしれないが、ミサの雰囲気が大切だと思う。この雰囲気は一人ひとりが作り出すもの。一人

ひとりの祈りが醸し出すもの。乳児でも、幼児でも、その雰囲気を感じとることができる。そのことをわきまえた上で、今一度「泣き部屋」や「母子室」と呼ばれる「場」の功罪について再考する必要があると思う。

子どもにとって、自分がいる場で何が起こっているのを見ることはとても重要なこと。見える場にいること。聞こえる場にいること。親と一緒にいても、友だちと一緒にいても……見える場にいること。生の声が聞こえる場にいること。「騒ぐ、うるさい」からということ子どもを遠ざけてはいけない。大人が神とともにある「雰囲気」を作れば、子どもはその「雰囲気」を楽しめる。五歳の幼児でも祭壇の前で一時間のミサに一人で参加することができる。これは例外ではない。普通に。